

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 大阪府初のエンパワメントスクールとして、これまで箕面東高校が一貫して取り組んできた、生徒一人ひとりを大切にする教育を基盤とした実践をさらに発展・拡充し、社会人として必要な資質・能力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する学校をめざす。
- 教職員一同が、生徒一人ひとりの教育に全力を注ぐことにより、入学する生徒たちが「箕面東高校が自分にとって一番いい学校」であり「箕面東高校を母校として頑張るといふ決意を持てる学校」となることをめざす。

【めざす生徒像】

- 確かな学力を身につけ、自分の進路を探究し、自己実現するための逞しく生き抜く力を持つ生徒。
- 豊かな心の育成に努め、「果たすべき役割」と「守るべき規範」を自覚し、将来社会に貢献するという志を持つ生徒。
- 自己の課題が発見でき、解決、克服できる力を持つ生徒。
- 社会人としての主体性を確立するとともに、自らの考えを社会に発信できるコミュニケーション能力を持つ生徒。
- 生涯にわたり学ぶことの大切さを理解できる生徒。

2 中期的目標

1 社会で活躍するために必要な基礎学力が身につけ、「わかる喜び」「学ぶ意欲」を喚起する授業の確立

- (1) エンパワメントスクールの理念である社会人として必要な「基礎学力」「考える力」の定着をめざした授業改善に取り組む。
 - ア 1年次、国数英は30分授業（モジュール授業）を毎日継続することにより、効率的に学力向上を図り基礎学力の定着を実現する。
 - イ 国数英は、3年間習熟度別・進路希望別授業を行い、一人ひとりに応じた学習を進め、得意科目の伸長、苦手科目を克服することで学ぶ意欲を喚起させる。
 - ウ タブレット、電子黒板等のICT機器活用やステップ分けしたドリル教材の活用により、わかりやすい授業の実現と達成感を自覚することで、学習意欲を高める。
 - エ 教科の枠を越えて学習指導について研究協議を行い「わかる授業」のための教材開発と授業方法の改善を図る。
- ※授業アンケートにおける、生徒の意識2項目の肯定的回答率80%以上をめざす。(27年度：75.1%)

2 興味・関心、進路希望に応じたキャリア教育の充実

- (1) 3年間を通じ「産業社会と人間」「総合学習の時間」「エンパワメント選択科目」を『エンパワメントタイム』とし、社会人基礎力を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を推進する。
 - (2) 『エンパワメントタイム』を活用し、3年間を見通した計画的なプログラムを策定して、自己理解をすすめる、進路実現を図る。
 - ア 大学・専門学校・民間企業等の外部資源を積極的に活用し、的確な進路選択力を育成する。
 - イ 入学から卒業・進路実現を見通したキャリア教育を計画的に推進する。
 - (3) 箕面東版デュアルシステムの取り組みを充実させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断のキャリアガイダンスに関する項目における肯定率80%をめざす。(27年度：71.5%)

3 生徒指導と相談体制の充実

- (1) 不登校生、課題のある生徒、再チャレンジなど多様な生徒への学校定着と自己実現を図る環境を整える。
 - ア 各学年団ごとに支援教育コーディネータを配置し、個別の支援計画を作成して、進路実現を図る。
 - イ 第2相談室「めいぶるカフェ」を開設し、NPO法人とも連携し、生徒の居場所活動に取り組むことにより、不登校生徒の防止を図る。
 - ウ 教育相談委員会を中心に支援学校や子ども家庭センターなどとの連携を強化し、研修会・事例研究会を頻繁に開催し教員のスキルの向上を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断の相談体制に関する項目における肯定率65%をめざす。(27年度：56.4%)
- (2) 生徒が学校に根付く生徒指導の充実。
 - ア すべての教育活動を通じて、規範意識の育成と果たすべき役割を自覚するための指導を実践する。
 - イ 生徒の自主的活動の支援を充実させ、学校への帰属意識や連帯感を育成する。
- ※授業アンケートにおける授業態度に関する自己肯定率85%をめざす。(27年度：83.8%)
 ※卒業時の進路未決定率10%以下をめざす。(27年度：18.4%)

4 エンパワメントスクールの認知度を高めるための情報提供と広報活動の充実

- (1) 中学校への情報発信と広報活動の充実。
 - ア 学校ホームページの充実
 - イ 中高連絡会、中学校訪問、学校説明会を積極的に実施し、本校エンパワメントスクールの理解と信頼を獲得する。
 - ウ 中学3年生向け広報誌「みのひがレター」を発行し、本校エンパワメントスクールの教育内容への理解を深める。
 - (2) 地域の教育資源を活用しつつ、本校の教育システムの理解を深めるための情報発信を展開する。
 - ア エンパワメントスクール展を外部会場で開催する。
 - イ エンパワメントタイムの授業等等で、地域住民との連携を充実・発展させる。
- ※本校HPへの年間アクセス数。学校説明会参加者数の増員。地域住民の参加者数増。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見				
<p>【学校に対する意識】 すべての学校に対する意識に関する項目のうち肯定的回答の平均値</p> <table border="1"> <tr> <td>C S 生徒 * 73.4%</td> <td>E S 生徒 * 69.9%</td> </tr> <tr> <td>C S 保護者 * 66.9%</td> <td>E S 保護者 * 76.9%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○(3) 箕面東への入学が希望通りである C S 生徒…肯定的 77.3% E S 生徒…肯定的 81.8% ○(4) 学校生活は楽しい C S 生徒…肯定的 51.6% E S 生徒…肯定的 52.6% (こんなものだと思う C S 30.9% E S 26.0%は含まず) (保護者 2・3) C S 保護者…肯定的 59.3% E S 保護者…肯定的 75.0% ○(5) 友人関係について C S 生徒…肯定的 86.5% E S 生徒…肯定的 91.2% ○(20) 現在選んでいるワールド科目について (満足度) C S 生徒…肯定的 81.2% (20) 現在選んでいる選択科目について (満足度) E S 生徒…肯定的 78.1% ○(29) ワールド科目全体について (力や個性の伸長) C S 生徒…肯定的 78.6% (29) エンパワ選択科目について (力や個性の伸長) E S 生徒…肯定的 69.8% 	C S 生徒 * 73.4%	E S 生徒 * 69.9%	C S 保護者 * 66.9%	E S 保護者 * 76.9%	<p>第 1 回学校協議会 平成 28 年 6 月 10 日 (金) 【6 限目の国語・数学・家庭・情報等の授業見学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識のある生徒には、成功体験を少しずつ積み重ねていけばよいと思います。 ・E S の授業を見たり、話を聞いたりしていると E S は大学進学に力が入っている。 ・C S の方が生徒は楽しそうにしているが…。大学進学という選択肢があったんだなという思いがする。C S の方が生徒の満足度は高いが、親としては E S に行かせてもよい気持ちになる。 ・保健室だけではなく、めいぶるカフェのような居場所が必要である。
C S 生徒 * 73.4%	E S 生徒 * 69.9%				
C S 保護者 * 66.9%	E S 保護者 * 76.9%				

○(35)自分の後輩や将来の子供に対して箕面東に行かせたい。保護者 40 知人の子供に勧めたい。

CS生徒…肯定的 65.4% ES生徒…肯定的 45.9%
CS保護者…肯定的 58.3% ES保護者…肯定的 64.2%

→本校へは、ほぼ希望通り、または納得して入学しているが、ESで4.0%、CSで6.0%の生徒が不本意入学であったと回答している。成績的に希望していたところへ行けなかったという生徒もいるであろうが、納得して本校へ入学できるような魅力づくりと情報発信が必要。

→友人関係はおおむね良好であるが、学校生活について、あまり楽しいとは感じていない。ESの保護者は、おおむね楽しく通っているととらえている。学校生活の楽しさについて、否定的な生徒の評価がCSでは17.5%、ESで21.4%ある。

→ESの選択科目に対する肯定的な評価が高くない。人数制限などがあって、あまり自由に選べなかったとの回答が9.6%あり、CSの同回答3.5%より大きく増えている。自分の興味・関心・進路に合わせて自分の時間割を組むことのできる総合学科としての魅力を、学び直しで力を引き出すエンパワメントスクールの中に位置づけることができないだろうか。

→箕面東を後輩や子供、知人に勧めたいの項目では、特にES生徒の肯定的意見が高くない。前述の「学校が楽しい」「選択科目の満足度」と、これからの進路実績等で本校の魅力をどう作り出していくのが課題である。

【生徒指導】 すべての生徒指導に関する項目のうち肯定的回答の平均値

CS生徒*67.7%	ES生徒*62.8%
CS保護者*78.2%	ES保護者*83.4%

○(32)頭髪指導 CS生徒…肯定的 59.7% ES生徒…肯定的 45.5%
○(33)ピアス・化粧 CS生徒…肯定的 58.1% ES生徒…肯定的 52.0%
○(34)遅刻指導 CS生徒…肯定的 69.1% ES生徒…肯定的 65.4%
○(42)私は学校のルールを守っている CS生徒…肯定的 84.0% ES生徒…肯定的 84.4%
○(6)信頼できる先生 CS生徒…肯定的 38.0% ES生徒…肯定的 38.8%
○(7)先生とのコミュニケーション CS生徒…肯定的 75.2% ES生徒…肯定的 74.6%
○(8)先生は気持ちをわかってくれる CS生徒…肯定的 54.1% ES生徒…肯定的 54.2%

→生徒指導に関しては、CS、ESとも保護者の肯定的意見の割合が高い。

→それぞれの具体的項目の生徒の肯定的意見の割合が低いのは、学校として厳しく迫っている表れであり、その点を保護者は高く評価しているのではないかと。また、生徒の多くは学校のルールを守っていると考えており、言い換えると、学校のルールは守るべきものという意識は定着していると言える。ただ、保護者の中にも指導に対して理解を得られず、指導が難しい場面もある。生徒にも保護者にも、指導の趣旨と目的について丁寧に説明して理解を得る努力を続けていきたい。

→「先生とのコミュニケーション」は一定とれているが、「気持ちをわかってくれる」の値はあまり高くなく、また、「信頼できる先生」の値は低い。生徒への働きかけが有効になるように、チームとしての生徒指導に取り組み、生徒が話しやすい環境づくりと情報の共有化ができる体制を作りあげることが必要である。

【学習指導等】 すべての学習指導に関する項目のうち肯定的回答の平均値

CS生徒*77.6%	ES生徒*73.2%
CS保護者*69.0%	ES保護者*69.2%

○(9)わかりやすい授業 CS生徒…肯定的 67.8% ES生徒…肯定的 62.7%
CS保護者…肯定的 39.1% ES保護者…64.7%
○(10)～(19) 学習内容の理解 CS生徒…肯定的 60.8%(数学)～82.5%(体育)
国語 71.7% 数学 60.8% 英語 66.2%
ES生徒…肯定的 57.2%(理科・ST理科)～91.3%(家庭)
国語・ST国語 69.4% (1年 67.1% 2年 71.7%)
数学・ST数学 61.9% (1年 75.8% 2年 47.8%)
英語・ST英語 65.9% (1年 61.6% 2年 70.3%)
○(22)家庭学習 全くしない CS生徒…67.3% ES生徒…72.6%
○(23)調査期間中の家庭学習 全くしない CS生徒…22.3% ES生徒…21.8%
○教員 13 問題解決的な学習指導 教員…肯定的 65.5% (昨年 70.0% 一昨年 37.7%)
○教員 14, 15 参加体験型学習、グループ学習など学習形態の工夫改善
教員…肯定的 90.0% (昨年 89.2% 一昨年 72.2%)
○33 読書指導 教員…肯定的 9.1%

→「わかりやすい授業」について、生徒、保護者ともあまり高くなく教員の工夫が求められる。一方、「参加体験型やグループ学習等の工夫改善」の教師の意識は一昨年より大きく伸びており、昨年度のアクティブ・ラーニングの研修や研究授業の研究協議会、相互授業見学等に取り組んだ成果と考えられ、これからの期待がもたれる。

→問題解決型の学習指導についての教員の意識も、エンパワメント選択科目として定着してきている。
→「学習内容の理解」では、ESでは「ST数学」の値が高く、モジュール授業の成果が出ている。

→「家庭学習」は7割程度の生徒が全くせず、この部分の改善ができれば、もっと生徒全体の学力が伸びるであろう。宿題を課す等の工夫や、S Jの取組みに見られるように、学校で放課後に学習する習慣をつけることで、学力の伸長を図る効果が期待できる。

→「読書指導」の値は低く、今後の取組みの課題である。

【進路指導】 すべての学校に進路指導に関する項目のうち肯定的回答の平均値

CS生徒*76.1%	ES生徒*76.8%	
CS保護者*75.6%	ES保護者*66.4%	教員*85.0%

○(28)キャリアガイダンス CS生徒…肯定的 69.8% ES生徒…肯定的 81.1%
教員…肯定的 85.5%(教員 26 系統的なキャリア教育)

・掃除がやや不十分ではないか。社会人としての基本、勉強以前のこともである。
・せっかく先生が魅力的な授業をしているのに、生徒のモチベーションが上がっていないと感じた。過保護にも見える。ハングリー精神が感じられない。
・家庭学習の習慣がないようなので、生徒が家庭学習する手立てを実行してもらいたい。

第2回学校協議会 平成28年11月30日(木)

【6限目の社会・理科・産業社会と人間・フードデザイン等の授業見学】

・授業見学では、生徒の笑顔が良かった。細かく配慮され、生徒の興味を、実態に見合った内容を実施している。
・前回より今回の方が、授業の雰囲気良かったように思う。
・個別の支援計画対象は大変だろうが、その生徒には必要なことなので早期の作成をし、活用してもらいたい。
・モジュール授業は慣れてくると、生徒にとって30分は短いのではないかと。
・保育所と連携した「子どもクッキング」(フードデザイン)では、園児と生徒と一緒ににおにぎりや味噌汁を作る素晴らしい授業であった。今後、箕面で作られたお米や野菜を使うなど工夫すれば、地域とのつながりが深まるのではないかと。
・5、6限の座学授業での生徒のモチベーション維持は難しい。身体を動かすような内容を工夫してはどうか？
・SNSが世の中を占め、ネット情報も多様化する時代で、「産業社会と人間」のように相手の立場になって理解を深めたり、コミュニケーション能力を上げる授業が様々な問題を解決するうえで役立つのではないかと。多様化する社会の中で子どもたちはどう生きればいいのかを教えることが、間接的ではあるが生徒の学習意欲につながると思う。
・現在、大学でも授業アンケートは必須である。アンケートは専任、非常勤を問わず実施している。高校でもぜひ、全教員対象にアンケート実施した方がよいと思う。

第3回学校協議会 平成29年2月13日(月)

・中小企業の社長の来校してもらい、話をしてもらうのはいいことだ。
・デュアル発表会は素晴らしい内容だったと聞いたが、その経験をもっと他の生徒にも広げることをした方がよい。
・中学校では、2年で職業体験を実施している。一人一職種として生徒自ら体験先を開拓させている。相手先に電話もかけさせるが、ハローワークから講師を招いて電話対応の授業も行っている。
・S J (スーパージャンププラン)の動向が気になる。ある新設高校に入学した生徒が3年後、医大に合格し、そのとたんに評判が上がった例を知っている。期待を持たせる学校は大事。S Jがうまくいくと何らかの求心力になる。
・出口がしっかりとしているところは志願者生徒も増える。
・「みのひがレター」が中学3年生向けであるなら、生徒向けのやわらかさが大事だ。
・クリーンアップ作戦ではPTAも一緒に手伝いながらやっている。清掃によって教育環境を整えることが大事だと思う。学校へ来るとまず玄関を見る。整理整頓で頭の働きもよくなり相乗効果がある。同窓会も一緒になって皆で清掃できたらいいと思う。
・HPは基本的にはパソコン仕様でスマホ仕様とは違う。情報発信がスマホ仕様になると情報の流れがさらに広がるだろう。(→本校のHPはスマホ仕様でもある)
・小中ではスマホ通じて情報がリアルタイムで上がってくる。小学校からパソコンがさかんに使われており、子どもたちの情報交換のツールになっている。
・保護者は結構、スマホを見ているので情報が遅れると不満を持つ人が多い。箕面市内の学校のHPやスマホ情報をほぼ全て見ている人もいる。
・SNSによる口コミはすごい。あなどれない。どこかでビジネス交流会を発信すると一週間で人の輪が広がる。一連の流れがストックされ実になる。「みのひが」の良さをどんどん発信していかないといけない。
・「読書指導」が気になる。箕面の駅前にブックカフェがあり、読書は結構はやっているが…。子ども読解力が落ちている。本の面白さをわかっていただくことが大事。読解力があれば国語・数学の成績も上がるはずである

<p>→進路指導に関する項目の平均については、生徒の評価に対して、ES保護者の値の低さが感じられる。生徒に対する指導や伝えている情報が、保護者まで伝わっていないのではないかと。通信やホームページ(ブログ)、メールマガジン等で、生徒の取り組みをもっと保護者に発信し、アピールしていきたい。</p> <p>→キャリアガイダンスについてESの値が高い。早い段階での進路への意識がESの学びのモチベーションにつながることを期待したい。</p> <p>→保護者のアンケート回収率は、CS18.5%、ES37.6%。また、その中でも「⑤よくわからない」への回答率平均が、CS30.2%、ES22.2%と生徒や学校への関心がやや低く感じられる。もう少し生徒や学校への関心少し持っていただき、学校と保護者双方からの働きかけで生徒の成長を見守っていききたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学でも図書館の活用が少ない。図書関連のいろんなイベントをしないと学生はほとんど来館しない。学生に図書館で本を読ませるのではなく本を捜すことをさせている。スマホで調べたことはすぐ忘れてしまう。 ・SSWは必要なので来年も継続してほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 つき、「わかる喜び」「学ぶ意欲」を喚起する授業の確立</p>	<p>(1)「基礎学力」「考える力」の定着をめざした授業改善に取り組む ア1年次国数英モジュール授業の充実 イ3年間を見据えた習熟度別学習の計画 ウICT機器の授業への効果的活用法の研究 エ「学習指導研究チーム」による授業改善の推進</p>	<p>(1) ア・国数英3教科を毎日1,2時間目に30分×3の授業とし、効率的に学力向上を図る。 イ・3年間を通じて、生徒一人ひとりに応じた学習を進められるよう、国数英3教科で習熟度別・進路希望別授業の計画を策定する。 ウ・ICT機器を活用した研究授業、相互の授業見学、ICT機器活用のための校内研修会を積極的に実施する。 エ・教科の枠を越えて組織された「学習指導研究チーム」で、「わかる授業」を実現させるための授業改善に取り組む。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの授業満足度(質問8,9)75%(27年度:75.1%) イ・年内の計画完成。 ウ・学校教育自己診断におけるICT、情報関連項目満足度80%(27年度:96.7%) エ・チーム主催の研究授業ならびに授業後の研究協議を年回3回実施(27年度:2回実施)</p>	<p>ア・第1回の授業アンケート結果:74.3%(△) 第2回の授業アンケート結果:75.2%(○) 30分授業なので集中もしやすく、毎日3教科の授業があることがわかることへつながっている。 イ・完成した(○) ウ・学校教育自己診断におけるICT、情報関連項目満足度は90.9% ICT機器活用のための校内研修会は実施したが、教員同士で相互に見学し、そのスキルを学び合っている。(○) エ・教員相互の授業見学は、6月と11月の授業見学週間の際に実施し、半数以上の教員が複数回の授業見学を行っていた。研究授業と研究協議は1回しか実施できなかった。(△)</p>
<p>2 興味・関心、進路希望に応じたキャリア教育の充実</p>	<p>(1)3年間を通じた『エンパワメントタイム』の指導計画を実現させるための校内指導体制の確立 (2)『エンパワメントタイム』の効果的活用の研究、外部人材を積極的に活用した、的確な進路選択能力の育成 (3)デュアルシステムの充実</p>	<p>(1)エンパワメントタイム完成期に向け、進路指導方針を確立する。 (2)「企業関係者」「地域人材」の方々を、エンパワメントタイムの講師に活用し、「本物に触れる授業」を実施し、キャリア教育の充実につなげる。 (3)・受講生徒の増加と受け入れ事業所の拡充を図る。 ・デュアルシステムのキャリアアップナビ講座において、外部専門家の講話、生徒間の意見交換会、発表会を通じて、自分の考えを述べ他人の意見を聞き、思考力・表現力を養成する。併せて進路決定力につなげる授業をめざす。</p>	<p>(1)・エンパワメントタイムと連動した進路指導計画を策定。 (2)・学校教育自己診断におけるキャリア教育項目の肯定率75%以上。(27年度:72.1%) (3)・次年度デュアルシステム受講希望者18人。(27年度:13人)</p>	<p>(1)・計画の柱は出来たので、ES完成年度の来年度に校内体制を確立させる(○) (2)・学校教育自己診断のキャリア教育項目の肯定率CS:69.8%,ES:81.1% ・6月には、2年生全員に進路別ガイダンスを校外の施設を借りて実施し、早め早めの進路決定意識を促した。生徒の事後アンケートでは、概ね肯定的な意見でその後の教科選択にも良い意味で大きな影響があった。(○) ・11月には14名の社長(中小企業同友会)さんに来校いただき、「働くこと」について1年生と話をする機会を設けた。生徒の事後アンケートではほぼ全員が「働くこと」に強い関心を持つ記述をした。(○) (3)・10人が参加し、毎週火曜日に前期と後期で違う事業所(自動車整備工場、飲食店等)で職業体験中。前期の発表会では、プレゼンテーションソフトを活用したレベルの高いプレゼンを示し、それぞれの成長が感じられた。(○)</p>
<p>3 生徒指導と相談体制の充実</p>	<p>(1)多様な生徒の学校定着と自己実現を図る環境整備 ア支援教育コーディネータによる支援教育計画の作成 イ生徒の居場所活動による不登校防止 (2)学校に根付かせる生徒指導 ア「果たすべき役割」の自覚と「規範意識」の育成 イ学校への帰属意識と連帯感の育成</p>	<p>(1) ア・各学年に支援教育コーディネータを配置し、「高校生活支援カード」や「教育相談アンケート」を活用し、組織的に個別の教育支援計画を作成する。 イ・居場所活動の拠点「めいぶるカフェ」の機能を拡充し、居場所作りと個別相談活動を両輪とした、不登校・中退予防体制を確立する。 (2) ア・新入生には入学直後に宿泊研修を実施し、学校生活における基本的な生活習慣の定着を図る。 イ・生徒主体の学校行事の発展・拡充と部活動加入率を上昇させる。</p>	<p>(1) ア・個別の教育支援計画作成達成率90%。(27年度:80%) イ・不登校率20%以下、中退率4%以下。(27年度:不登校率27.8%、中退率5%) (2) ア・学校教育自己診断における規範意識肯定率80%以上。(27年度:77.7%)ならびに授業アンケート自己肯定率85%。(27年度:84%) イ・エンパワメント生の部活加入率50%。(27年度:40%)</p>	<p>(1) ア・個別の教育支援計画作成が目的ではなく、その活用について、学校全体で意志統一の必要がある。(△) イ・不登校率:20.1%(△) 中退率:6.85%(ESのみは6.13%)(△) 居場所活動の拠点「めいぶるカフェ」への予算が下りず常駐のスタッフは不在のままである。何とかボランティアの協力によりカフェを開いてはいたが、その機能は昨年より大きく低下した。(△) (2) ア・学校教育自己診断の規範意識の肯定率CS:84.0%,ES:84.4%(○) ・第1回の授業アンケート結果:88.0%(◎) ・第2回の授業アンケート結果:87.1%(◎) 新入生に対して宿泊研修を実施し、基本的な生活習慣の確立には一翼を担った。ただし、次年度はより効果的にするため実施時期を変更予定である。 イ・加入率は50%であった。サッカー部は3回戦突破、男子バスケットボール部は4回戦進出など目に見える成果もあげている。また、1月のクリーンアップ作戦では、すべての部員が校内や校外の清掃活動に参加した。(◎)</p>

<p>4 エンパワメントスクールの認知度を高めるための情報提供と広報活動の充実</p>	<p>(1) 中学校への情報発信 ア学校HPの充実 イ 中学校連携の発展・拡充 ウ 広報誌の刷新</p> <p>(2) 地域連携の充実 アエンパワメントスクール展の開催 イ年2回の授業公開実施</p>	<p>(1) ア・時期を得た更新とエンパワメントスクール独自の取組みを広く発信していく。 イ・オープンスクールの充実、中高連絡会の効果的開催、緊密な中学校訪問を行い、きめ細かい中高連携を進める。 ウ・エンパワメントスクールの教育内容を中心とした広報誌「みのひがレター」を、旧1地区中学校の3年生全員に年2回配布する。</p> <p>(2) ア・地元箕面市の施設を利用した「エンパワメントスクール展」を開催し、本校教育実践を広く府民に情報発信する。 イ・6月、11月のそれぞれ3日間の授業公開を実施する。</p>	<p>(1) ア・HPの最新ニュースの件数増ならびにアクセス数増。(27年度：200～300/日) イ、ウ ・年間4回のオープンスクール参加者数600名。(27年度：561名)</p> <p>(2) ア・入場者数800名(27年度：約600名)をめざし、下記イの参加者数増につなげる。 イ・特にモジュール授業については、授業公開を積極的に行い、中学校教員、地元府民に開放しエンパワメントスクールの認知度向上をめざす。</p>	<p>(1) ア・HPへのニュースのアップ数は128となり、昨年より2割多い。アクセス数はやや減少(○) イ・オープンスクールの実施回数を昨年より1回増やして4回とした。総参加数は612人(中学生参加者：65人+81人+134人+116人)であった。(◎) 4月当初に校長が箕面の全中学校を訪問した。また、夏休みには全教員で73校の中学校を訪れ、在校生の様子を伝えた。また、9月には運営委員を中心に50中学校を回り、オープンスクールへの参加を訴えた。(◎) ・また、里帰りとして1.2年生を約20人を出身中学校に派遣し、本校の様子を伝えた。(◎) ウ・教育内容を中心とした広報誌「みのひがレター」を、旧1地区中学校の3年生全員に年2回配布した。(○)</p> <p>(2) ア・11/23～11/29 Q' smallの箕面市民活動センターで「みのひが展」として生徒の活動をパネル展示した。休日には、保護者の協力で地元の野菜をセンター前で売ることによって展示への呼び込みも行った。参加者数は約300人であった。(○) イ・授業公開を2回実施し、多くの中学校教員に本校の特徴ある授業を示すよい機会となった。また、ESに対する興味が高校教員にもあることわかった。本校の保護者の参加数が少ないことから関心の低さを感じた。(○)</p> <table border="1" data-bbox="1396 1142 1980 1291"> <thead> <tr> <th></th> <th>合計</th> <th>委員会</th> <th>高校教員</th> <th>中学教員</th> <th>保護者</th> <th>中学保護者</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>53人</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>21</td> <td>12</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>31人</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>12</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>*来年度は、公開授業とオープンスクールを日曜日開催することでより多くの本校の保護者や中学生やその保護者にも授業見学できるようにする。 *エンパワメントスクールへの関心は高く、府外からの視察を5回受けた。 7月：宮城県議会議員 11月：岐阜県(恵那南高校) 1月：福岡県(早良高校)、三重県(桑名北高校) 2月：北海道教育委庁事務局</p>		合計	委員会	高校教員	中学教員	保護者	中学保護者	その他	6月	53人	10	10	21	12	0	0	11月	31人	1	3	12	2	8	5
		合計	委員会	高校教員	中学教員	保護者	中学保護者	その他																				
6月	53人	10	10	21	12	0	0																					
11月	31人	1	3	12	2	8	5																					